

震災ボランティア派遣 FAX通信⑥

2011年5月10日



各組合・地域労連

御中

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

第2チーム帰ってきました



【感想～ボランティアに参加して】

震災後何か自分でもできることはないのかと思っていましたが、議長・事務局長が5月4～6日大船渡にボランティアに入るといので、私も参加させていただきました。たった3日間でしたが、河川の清掃・個人宅の床下の泥上げ、道路脇の清掃などを行ってきました。4日朝到着したボランティアセンター付近はそんなに被害が感じられず、だいぶ復旧されてきているのかなという思いでしたが、ちょっと場所が変わっただけで風景は一変し、テレビで見えてはいましたが、被害にあっ

た現地を目の当たりにし声が出ません。初日は河川の清掃でした。流されてきた紙やビニール、燃えないゴミや発泡スチロールの破片魚・萱などの片付けに200人を超える人たちが参加していました。倒木もありました。途中で霰が降ったりもしましたが、それより粉塵が目に入って閉口したのと、二枚重ねの粉塵マスクでも鼻穴が黒くなり、のどがいがらっぽくなりました。しっかり対策を取ることが大事です。二日目は個人宅の床下清掃でした。我々の仲間は20人ぐらいいましたが、他団体からの応援要請で、二手に分かれます。床板を剥がし泥（乾いていましたが）をかき出します。粉塵マスクやゴーグルは必須アイテムです。三日目は道路脇や線路の側面に散乱している漂着物の片付けです。到着した時から気になっていた臭いの原因が判ります。市場からの魚が散乱して腐敗しているのです。業者が行うことになっているようですが、気温上昇の前に早期の対策が必要だと感じました。合間に地元の方の声を立ち話でしたが、聞く機会がありました。家が流され土台しか残っていないお宅の方でした。なにか思い出の品などがないかと時々来ているということです。地元の方の間で語られているのが、財布やハンドバッグなどが見つかって必ずと言っていいほど口が開いていると。だからよその人の土地を探すなどはできないという。ボランティアにしても頼む方や橋渡し双方に難しい問題だと思う。復興策が議論されているが、被災した人の気持ちに副った今後を考えることが大事と特に思う。（県労連副議長・立柳作之進）